

# 生産性向上を支援

## 自動化設備導入ノウハウ提供

### 中小企業基盤整備機構

#### 中小企業の自動化設備・ロボット導入

#### 成功に導く「じならし」とは？



中小機構 チーフアドバイザー 林 芳樹氏

生産性向上に向けて中小企業でも自動化設備・ロボット（以下、自動化設備という）導入に取り組む企業が増加している。中小企業基盤整備機構（中小機構）関東本部では、課題のヒアリングや製造現場の確認を通して、自動化設備導入の際に必要な課題整理をサポートする取り組みを開始。単に自動化設備を導入すれば万事全て解決ということではなく、導入前の「じならし」こそが大切だと訴える中小機構の林芳樹チーフアドバイザーに話を聞いた。

#### 「ありがたい姿」へ要件明確化

「中小企業の自動化設備導入における課題を教えてください。」  
「中小企業では自動化設備を導入しても、うまく使えていない場合が多い。導入して

も期待通りの効果が出ない、製造現場の変化に対応できない、場合によっては遊休資産化することも珍しくない。自動化設備導入は高効率化が常に課題だった大手の電機や自動車、物流業界を中心に発展してきたが、この流れは少子高齢化などで中小製造業にも広がっており、ロボットやシステム構築などの業界は盛り上がりを見せている。中小機構としても、国内企業の9割超を占める中小企業の自動化設備導入の取り組みを積極的に支援すること、全体の底上げを図りたいと考えている。

「要件定義業務を契約できなければ、どのように対応し」  
「慣習の変化を待っていては遅いので、自社でこの作業をしっかりと行う必要がある。まずは、自動化設備導入後の『ありがたい姿』を思い描き、現状の問題点・課題を明確にすることで、やるべきことが見えてくる。そこから課題の洗い出し、どこから取り組むかといった優先順位付け、解決方法の検討等、『ありがたい姿』を実現するための課題整理、いわゆる『じならし』を行うことを薦めている。

「中小企業はまだまた自社の付加価値を高められる余地がある。コロナ禍で大変な企業が多いと思うが、今こそ改善や改革、自動化設備の導入等による効率化、高付加価値化、生産性の向上といった取り組みへの挑戦を期待している。当機構は前述した以外にもさまざまな支援策を用意している。何か困っていること、解決したい課題等があれば、ぜひ気軽に相談してもいい。」

#### 生産工程スマート化診断の流れ

ヒアリング、製造工程の現状分析をした上で、課題の整理・可視化を実施し、ロボット、IoT及びデジタル化技術の活用可能性を提案。

##### 事前ヒアリング

##### お申し込み

第1回支援 ・事業概要、製造工程の課題、業務フロー等に係るヒアリングを実施  
・実際の製造工程の確認、現場調査

第2回支援 ・第1回支援の分析結果をもとに、現状の問題点・課題の洗い出しを実施  
・提案の方向性の確認、業務課題の解決に向けた方法の検討

第3回支援 ・生産工程の課題について対応策をご提案  
・必要に応じて、他の支援ツールをご提案

※生産工程スマート化診断は、現在試行段階のため、今後、内容が変更になる場合もあります。

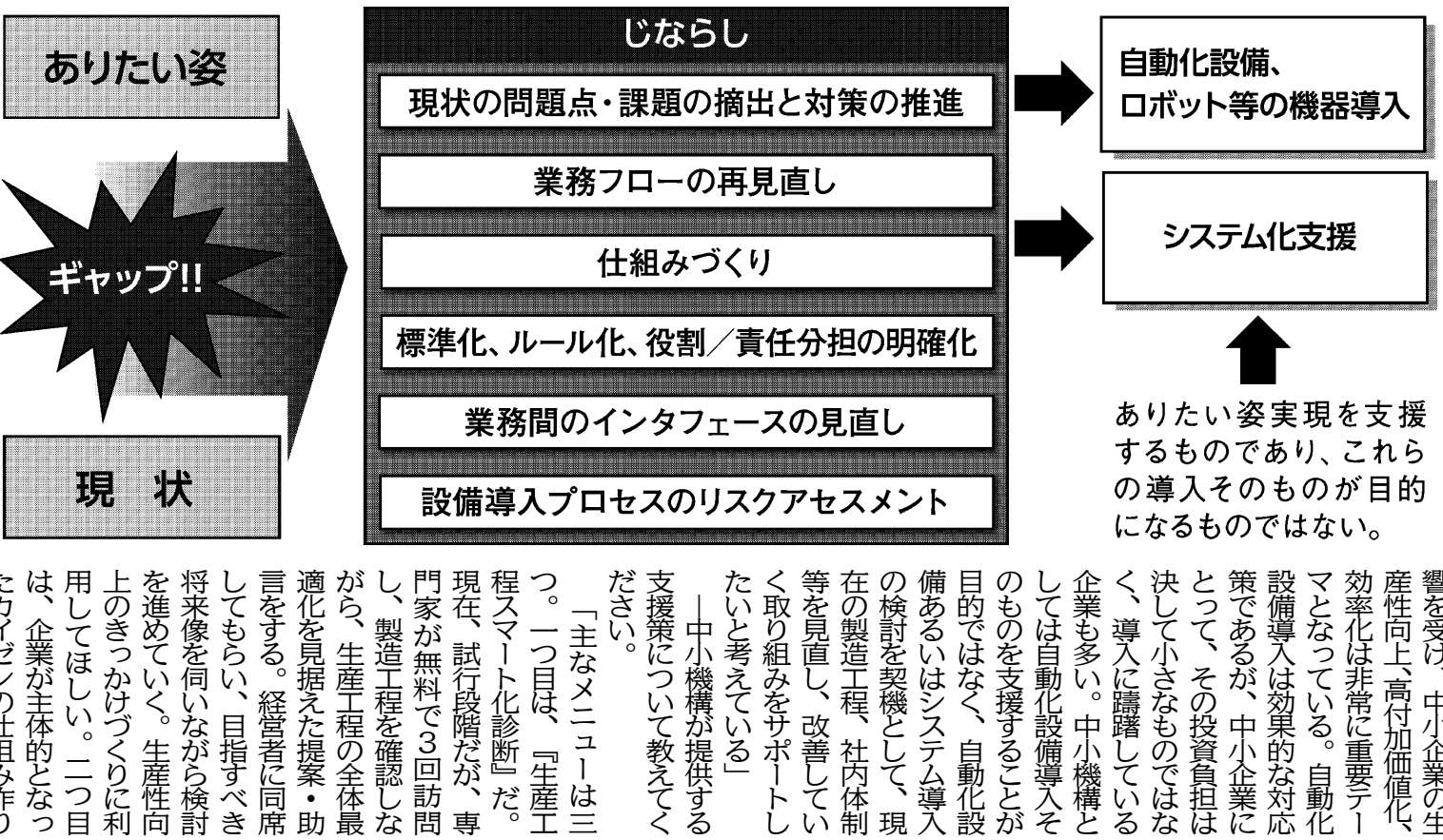
### 課題洗い出し 社内体制整える

「中小企業の設備導入がうまく進まない原因はどこにあるのか。」  
「自動化設備を導入する前に、必要な機能をまとめていく作業『要件定義』が不十分なことや要因のひとつとして考えられる。結果を出すためには、自動化設備を提供する側の構築技術や品質はもちろんだが、導入する中小企業側も自社の『ありがたい姿』を実現するための要件の明確化や推進体制づくり等をしっかりと行うことが肝要だ。ただ中小企業の場合、全体を統括推進する部門がない、全体を把握している担当者がいない、人材が不足しているといったさまざまな要因で、この要件定義の作業が進まない場合に、解決する手段はないです。」  
「情報技術（IT）システム構築の場合、要件定義作業と構築作業を分離した『多段階契約』が一般的であるが、自動化設備導入の場合、商談プロセスの中で無償で要件定義の作業が行われることが多く、十分な詰めが行われないまま導入に入っていくことが少なくない。要件定義作業の有償化が解決策のひとつであるが、費用がかさむことや要件定義に対応しうるロボットシステムインテグレーター（SIE）側の問題もあり一朝一夕にはいかならないだろう。」

#### 高付加価値化・人材育成にも効果

「私がかつて社内のシステム構築に携わった頃から痛感しているのだが、『天から降ってきたシステムはなかなか現場に定着しない』。導入した自動化設備、システムを現場でうまく運用するために、早い段階から現場を巻き込んで当事者意識を持つことも、運用がどう変わるのか、どんなメリットがあるのかを丁寧に説明し、納得感をもつて取り組みを推進することが肝要だ。」  
「なぜ中小機構が進めるのか。『人口減少やコロナ禍の影響を受け、中小企業の生産性向上、高付加価値化、効率化は非常に重要テーマとなっている。自動化設備導入は効果的な対応策であるが、中小企業にとって、その投資負担は決して小さなものではなく、導入に躊躇している企業も多い。中小機構としては自動化設備導入そのものを支援することが目的ではなく、自動化設備のあるいはシステム導入の検討を契機として、現在の製造工程、社内体制等を見直し、改善していく取り組みをサポートしたいと考えている。』  
「中小機構が提供する支援策について教えてください。」  
「主なメニューは三つ。一つ目は、『生産工程スマート化診断』だ。現在、試行段階だが、専門家が無料で3回訪問し、製造工程を確認しながら、生産工程の全体最適化を見据えた提案・助言をする。経営者に同席してもらい、目指すべき将来像を向いながら検討を進めていく。生産性向上のきっかけづくりに利用してほしい。二つ目は、企業が主体的となったカイゼンの仕組み作りを支援する『ハンズオン支援事業』。当機構職員と経験豊富なアドバイザーがチームを組み、さまざまな経営課題の解決をサポートする。企業にプロジェクトチームを組んでもらい、主体的に活用してもらうことで、課題解決のノウハウを身に付けてもらう。三つ目は、『IT経営簡易診断』。専門家との3回の無料面談を通じ、IT導入の可能性について提案する。」

「中小企業はまだまた自社の付加価値を高められる余地がある。コロナ禍で大変な企業が多いと思うが、今こそ改善や改革、自動化設備の導入等による効率化、高付加価値化、生産性の向上といった取り組みへの挑戦を期待している。当機構は前述した以外にもさまざまな支援策を用意している。何か困っていること、解決したい課題等があれば、ぜひ気軽に相談してもいい。」



機構職員と専門家、企業の経営課題を掘り下げ、企業に合わせた支援計画を策定し提案します。企業は社内プロジェクトチームを編成して、プロジェクトを展開。機構の支援チームは、その活動に対して助言等を行い、企業の自立的な成長をサポートしていきます。

経営戦略 中期計画	生産性 向上	IT戦略 IT導入	営業力 強化	販路開拓 EC	新分野 進出	原価 管理
--------------	-----------	--------------	-----------	------------	-----------	----------

ITを活用・導入したいが、どうしたらいいかわからない...  
**IT経営簡易診断** 令和3年度分 募集中!  
3回の面談を通じて、人間ドックのように自社のIT経営をチェック&見える化、IT活用の可能性を提案します。お申し込みは中小機構HPから

Be a Great Small. 中小機構

中小企業経営者の皆様へ

不確実性の高い時代だからこそ 未来のために 今できることを

## 中小機構のハンズオン支援

問合わせ先 独立行政法人 中小企業基盤整備機構 関東本部企業支援課 TEL:03-5470-1637 中小機構 ハンズオン

<中小機構とは> 中小機構は、国の中小企業政策全般にわたる中核的な実施機関です。地域の自治体や支援機関などと連携しながら、中小企業の成長をサポートしています。

